



# IVR エンタープライズ データベース サブシステムの設定

この章では、Cisco Unity Express IVR データベース プロファイルと統合パラメータの設定方法について説明します。IVR エンタープライズ データベース プロファイルおよび統合 CLI コマンドセットは、新規データベース プロファイルを追加するか、またはデータベース プロファイルがすでに存在するときに既存のデータベース プロファイル パラメータを変更する場合に使用します。

IVR エンタープライズ データベース サブシステム (EDBS) プロファイル設定 CLI コマンドは、Cisco Unity Express Interactive Voice Response (IVR) 外部データベース プロファイルを設定する場合に使用します。

## 新規データベース プロファイルの作成

### 概略手順

1. `config t`
  2. `ccn subsystem edbs dbprofile`
  3. `dbtype {DB2 | MSSQL-MSDE | ORACLE | SYBASE}`
  4. `db-username userid`  
および  
`db-password password`
- または、
5. `credentials hidden credential-string`
  6. `dbname external-db-name`
  7. `db-hostname hostname`
  8. `db-port port-number`
  9. `maxactive maximum-active-connections`
  10. `parameter name value`
  11. `enabled`
  12. `default {credentials | dbname | dbtype | description | enabled | db-hostname | maxactive | parameter | db-password | db-port | db-username}`
  13. `end`
  14. `exit`

## 15. show ccn subsystem edbs dbprofile

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<pre>config t</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# config t</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<pre>ccn subsystem edbs dbprofile dbprofilename</pre> <p>新規データベース プロファイルが追加されると、次のメッセージがコンソールに表示された後、データベース プロファイル コマンド モードになります。</p> <pre>Adding new Database profile</pre> <p>If a database profile already exists, the following message appears on the console:</p> <pre>Modifying existing Database profile</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config)# ccn subsystem edbs dbprofile myDBProfile Adding new Database profile se-10-0-0-0(config-dbprof)&gt;</pre>	新規データベース プロファイルを作成して、EDBS プロファイル設定モードを開始します。データベース プロファイルを削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 3	<pre>dbtype {DB2   MSSQL-MSDE   ORACLE   SYBASE}</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# dbtype Oracle</pre>	次の必要なデータベース タイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>DB2</b> : IBM の基本データベース システム</li> <li>• <b>MSSQL-MSDE</b> : Microsoft SQL または Microsoft データベース エンジンの基本データベース システム</li> <li>• <b>ORACLE</b> : Oracle の基本データベース システム</li> <li>• <b>SYBASE</b> : Sybase の基本データベース システム</li> </ul>
ステップ 4	<pre>db-username userid および db-password password</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# db-username james se-10-0-0-0(config-dbprof)# db-password dbpasswd</pre>	データベースに接続するには、 <b>db-username</b> および <b>db-password</b> 認証オプションを指定します。指定されたユーザ名およびパスワード文字列を削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 5	<pre>credentials hidden credential-string</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# credentials hidden James_dbpasswd</pre>	データベースに接続するには、ユーザ名とパスワード認証を暗号化形式で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指定された資格文字列を削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> </ul>

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 6	<p><b>dbname</b> <i>external-db-name</i></p> <p>例: se-10-0-0-0 (config-dbprof) # dbname atlanta</p>	<p>外部データベース名を指定するには、<b>dbname</b> オプションを指定します。名前が指定されると、指定された外部データベースに接続されます。この設定を削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p> <p>(注) 一部のデータベース ドキュメントでは、<b>dbname</b> をデータ ソース名 (DSN) と呼んでいます。</p>
ステップ 7	<p><b>db-hostname</b> {<i>ip-address</i>   <i>hostname</i>}</p> <p>例: se-10-0-0-0 (config-dbprof) # db-hostname myHost</p>	<p>データベース サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。この設定を削除するには、このコマンドの <b>no</b> および <b>default</b> 形式を使用します。</p> <p>(注) 外部データベースに IP アドレスではなく DNS ホスト名を使用する場合は、DNS ホスト名を入力する前に DNS サーバが設定されている必要があります。</p>
ステップ 8	<p><b>db-port</b> <i>port-number</i></p> <p>例: se-10-0-0-0 (config-dbprof) # db-port 10</p>	<p>(オプション) データベースのデフォルト ポート番号以外のポート番号を指定します。通常、データベースはデフォルトポート番号を使用して開始されますが、デフォルトポート番号を別のポート番号に変更しておくことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この設定を削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> <li>デフォルト ポート番号は、基本となるデータベースによって異なります。たとえば、MSSQL および MSDE のデフォルト ポート番号は 1433 であり、Oracle データベースのデフォルト ポート番号は 1521 です。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>maxactive</b> <i>maximum-active-connections</i></p> <p>例: se-10-0-0-0 (config-dbprof) # maxactive 8</p>	<p>外部データベースへの同時アクティブ接続の最大数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大数の制限に達した後に接続要求が行われると、接続障害が発生します。指定できる最大値 (デフォルト値) は通常、IVR セッションのライセンス数の 2 倍です。</li> <li>デフォルト値に許容される同時アクティブ接続の最大数を設定するには、このコマンドの <b>no</b> および <b>default</b> 形式を使用します。</li> <li>Cisco Unity Express モジュールの場合、<b>maxactive</b> のデフォルト値は、<i>max_ivr_port</i> 値の 2 倍です。</li> </ul>

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 10	<p><code>parameter name value</code></p> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# parameter *headerchar *continuation</pre>	<p>(オプション) JDBC ドライバ固有の名前と値のペアを指定します。名前と値のペアは、JDBC ドライバの要件と一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JDBC ドライバにはそれぞれ、カスタマイズされた異なるパラメータ セットを指定できます。</li> <li>複数のドライバ プロパティを設定するには、このコマンドを複数回使用します。</li> <li>この設定を削除するには、このコマンドの <b>no</b> および <b>default</b> 形式を使用します。</li> </ul> <p>(注) このコマンドを使用するときは注意してください。この値は、モジュールがデータベースに接続する方法に影響します。このコマンドを使用する前に、データベース管理者にお問い合わせください。特に必要がない限り、このコマンドは使用しないでください。</p>
ステップ 11	<p><code>enabled</code></p> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# enabled</pre>	<p>データベース スクリプトのデータベース ステップを実行する際に、外部データベース プロファイルを使用できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データベース プロファイルを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> <li>プロファイルを有効にするには、このコマンドの <b>default</b> 形式を使用します。</li> </ul>

	コマンドまたは操作	目的
<p><b>ステップ 12</b></p>	<pre>default {credentials   dbname   dbtype   description   enabled   db-hostname   maxactive   parameter   db-password   db-port   db-username}</pre> <p><b>例:</b></p> <pre>se-10-0-0-0# config t se-10-0-0-0(config)# ccn subsystem edbs dbprofile mydbprofile Adding new Database profile se-10-0-0-0(config-dbprof)# default credentials se-10-0-0-0(config-dbprof)# default dbname se-10-0-0-0(config-dbprof)# default dbtype se-10-0-0-0(config-dbprof)# default description cue_hostname se-10-0-0-0(config-dbprof)# default enabled se-10-0-0-0(config-dbprof)# default db-hostname local se-10-0-0-0(config-dbprof)# default maxactive se-10-0-0-0(config-dbprof)# default parameter se-10-0-0-0(config-dbprof)# default db-password se-10-0-0-0(config-dbprof)# default db-port se-10-0-0-0(config-dbprof)# default db-username se-10-0-0-0(config-dbprof)# end se-10-0-0-0(config)# exit</pre>	<p>IVR EDBS 値を、Cisco Unity Express IVR データベース プロファイル設定モードのデフォルト値にリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>credentials</b> : IVR EDBS データベースには影響しません。</li> <li>• <b>dbname</b> : データベース名は設定されません。</li> <li>• <b>dbtype</b> : データベース タイプは設定されません。</li> <li>• <b>description</b> : データベース プロファイルの説明は指定されません。</li> <li>• <b>enabled</b> : IVR EDBS を有効にします。EDBS を無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> <li>• <b>db-hostname</b> : 外部データベース ホスト名は指定されません。</li> <li>• <b>maxactive</b> : 最大値を、IVR セッションのライセンス数の 2 倍に設定します。</li> <li>• <b>parameter</b> : パラメータの名前と値のペアは設定されません。</li> <li>• <b>db-password</b> : IVR EDBS パスワードに空の文字列を設定します。</li> <li>• <b>db-port</b> : 特定のポート番号は指定されません。 <b>dbtype</b> に基づいたデータベースのデフォルト ポート番号を使用します。</li> <li>• <b>db-username</b> : IVR EDBS ユーザ名に空の文字列を設定します。</li> </ul>
<p><b>ステップ 13</b></p>	<pre>end</pre> <p><b>例:</b></p> <pre>se-10-0-0-0(config-dbprof)# end</pre>	<p>EDBS データベース プロファイル設定モードを保存して、終了します。</p> <p>(注) <b>end</b> コマンドが使用されない場合、変更内容は保存されません。</p>
<p><b>ステップ 14</b></p>	<pre>exit</pre> <p><b>例:</b></p> <pre>se-10-0-0-0(config)# exit</pre>	<p>グローバル設定モードを終了します。</p>
<p><b>ステップ 15</b></p>	<pre>show ccn subsystem edbs dbprofile {profilname   all}</pre> <p><b>例:</b></p> <pre>se-10-0-0-0# show ccn subsystem edbs dbprofile profilname</pre>	<p>EDBS データベース サブシステム パラメータを表示します。プロファイル名が指定されていない場合、すべてのデータベース プロファイルを表示できます。</p>

**例**

次の例は、**show ccn subsystem edbs dbprofile** コマンドの出力結果を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn subsystem edbs dbprofile myDBProfile
```

```
Name: myDBProfile
```

## ■ 新規データベース プロファイルの作成

```
Database Type:          Oracle
Database Name:         atlanta
Username:              james
Password:              *****
Hostname:              myHost
Port:                  10
Enable:                yes
Max active connections: 8
*headerchar            *continuation
Status:                Active
```